

# LECTURE

## 講演会報告

大学

言語学者として『「女ことば」はつくられる』などの本を書かれている中村桃子先生に午前に長久手キャンパス、午後には星が丘キャンパスでご講演いただきました。明治時代の「女学生ことば」がどのようにつくれたかが主な内容でした。

中村先生はまず、明治時代の女子学生の写真を見てくださいながら、女子学生は当初、女学生とは呼ばれていなかつたことを指摘され、いくつかの過程を経て服装や言葉遣いが女学生独自の文化として特徴づけられてきたことを話されました。女学生は新聞や雑誌にとりあげられる際に、漫画でなまめかしく描かれたり、教養を身につけたために堕落したとされる架空の女学生として皮肉をこめて滑稽に描写されるなど、軽薄なイメージで表象されてきたことにも言及されました。そういう女学生像が批判の対象となることで良妻賢母規範の提唱の根拠とされたのです。さまざまなメディアによって明治時代につくられた「女ことば」が今も辞書に掲載されるなどして生き残ってきたとも付け加えられました。講演の最後には、明治時代の「女ことば」がつくられた過程が現代の女子大学生が使うことばにもあてはまるかどうかなどについて、来場者と活発に意見交換もなされました。



- ジェンダー・女性学研究所主催  
第27回定例セミナー  
『「女ことば」はつくられる』
- 関東学院大学経済学部 教授  
中村桃子氏
- 6/5 長久手キャンパス及び  
星が丘キャンパス

